

中国知的財産権



ニュースレター

中国国際貿易促進委員会特許商標事務所

2022年第9号(全91号)

2022年9月28日



〒100031 中国

北京市西城区復興門内大街 158 号

遠洋大厦 10 階

TEL : +86-10-66412345

FAX : +86-10-66415678/10-66413211

E-MAIL: mail@ccpit-patent.com.cn

〒100-0004 日本

東京都千代田区大手町二丁目 2 番 1 号

新大手町ビル 2 階 265 区

TEL: +81-3-6262-6643

FAX: +81-3-6262-6645

E-MAIL: Tokyo@ccpit-patent.com.cn

www.ccpit-patent.com.cn

目次

知的財産権鑑定に関する一連の業界標準が公布.....	2
北京 多部門共同で実施意見を公表 知的財産権紛争の多元的な調停を強化.....	3
北京知的財産権裁判所が挙証マニュアルを公布、コンピューターソフトウェア著作権に係る民事案件当事者による訴訟を利便化.....	4
中国の新興技術分野の保有専利が強化.....	5
2021年中国知的財産権統計年報が公表.....	6
AI・IoT・ビジネスモデルの関連情報.....	7

知的財産権鑑定に関する一連の業界標準が公布

先頃、中国知的財産権研究会が『知的財産権鑑定管理規範』、『專利鑑定規範』及び『商標鑑定規範』の3つの知的財産権鑑定に関する一連の業界標準を公布し、全国業界標準情報プラットフォームで公表した。

中国知的財産権研究会の関係責任者によると、今回の業界標準には知的財産権鑑定機関に対する基本要求、鑑定プロセス及び專利、商標鑑定の具体的な実施規範などが含まれている。その公布は、知的財産権鑑定機関や鑑定人に鑑定を行う上での準拠と指導を提供することを目的とし、知的財産権鑑定業界の専門化、規範化への発展の促進に重要な意義を有し、中国知的財産権鑑定関連の国家標準、業界標準に関する作業が大きく進展したことを意味している。

紹介によると、今回の業界標準の制定作業は2021年3月に中国知的財産権研究会の知的財産権鑑定専門委員会の指導の下で開始された。同専門委員会は、知的財産権鑑定業界の自主規制管理組織として、業界団体を組織し、業界標準の編集に共同参加させている。

https://www.cnipa.gov.cn/art/2022/8/10/art_53_177235.html

北京 多部門共同で実施意見を公表 知的財産権紛争の多角的な調停を強化

先頃、北京市知識産権局が北京市司法局など 11 部門と共同で『北京市の知的財産権紛争の多角的な調停作業の強化に関する実施意見』(以下、『実施意見』という)を公表し、首都の知的財産権紛争の多角的解決メカニズムをさらに改善した。

『実施意見』は、2025 年までに北京市の知的財産権紛争が頻発した地域と業界に調停メカニズムを導入し、人民調停委員会による調停、行政機関による調停、業種ごとの専門的な調停、司法による調停が連携、補完、連動した多角的な調停体制の構築に努め、市場化方式による商事調停活動の展開を積極的に探索するという、今後一定期間での北京市知的財産権紛争調停活動の目標、任務及び主要な措置を明確にしている。

近年、北京市の知的財産権紛争の多角的調停活動は継続的かつ強力で推進されており、2022 年 7 月末までに累計 3 万 5643 件の各種紛争を受理し、調停成功率は 62.7%で、権利者に便利で高効率、低コストの権利保護ルートを提供している。

<http://ipr.mofcom.gov.cn/article/gnxw/zfbm/zfbmdf/bj/202209/1973031.html>

北京知的財産権裁判所が挙証マニュアルを公布、コンピューターソフトウェア著作権に係る民事案件当事者による訴訟を利便化

北京知的財産権裁判所は8月25日、中国語と英語の『コンピューターソフトウェア著作権に係る民事案件当事者の挙証マニュアル』を公布し、コンピューターソフトウェア著作権の帰属紛争、権利侵害紛争並びにコンピューターソフトウェア契約紛争に係る挙証問題について解釈し、当事者がより適切に訴訟に参加できるようにした。

北京知的財産権裁判所の宋魚水副所長によると、2014年の設立以来、北京知的財産権裁判所はコンピューターソフトウェア著作権に係る民事案件5000件近くを受理し、うち4000件近くの裁判を終了した。関係案件の挙証難問題を解決するため、裁判所は裁判の経験を踏まえて実務上よくある問題を整理し、まとめ、挙証マニュアルとして公布し、当事者の挙証作業を指導し、コンピューターソフトウェア産業の発展のために司法の知恵を提供し、サポートしている。

『コンピューターソフトウェア著作権に係る民事案件当事者の挙証マニュアル』はコンピューターソフトウェア権の帰属紛争と権利侵害紛争の当事者の挙証責任、挙証方法についてアドバイスし、コンピューターソフトウェア契約紛争案件について契約の内容、効力、履行及び解除の4つの問題を明確にしており、また、コンピューターソフトウェア著作権に係る民事案件のプロセスをさらに明確にしている。

<http://ipr.mofcom.gov.cn/article/gnxw/sfjg/rmfy/dfly/202208/1972851.html>

中国の新興技術分野の保有專利が強化

統計によると、2022年6月末現在の中国の国内有効發明專利数ランキング上位3技術分野はコンピューター技術、測量、デジタル通信であり、それぞれ全体の9.4%、7.6%と6.8%を占めている。増加率が最も高かったのは情報技術管理方法、コンピューター技術及び医療技術の三分野であり、それぞれ前年同期比で78.5%、32.3%、27.1%増加した。

目下、クラウド・コンピューティング、ビッグデータ、人工知能などに代表される新興技術の発展の勢いはなお盛んであり、中国での発展はとりわけ急速である。デジタル技術関連産業はその重要な部分を占めている。中国国家知識産権局戦略企画部の葛樹部長の紹介によると、2021年末現在の中国デジタル経済分野のコア産業が保有する有効發明專利は97万7000件で2016年の2.8倍になり、国内有効發明專利に占める割合は35.2%に達している。

企業が重要なイノベーション主体として、デジタル経済のイノベーション、発展の促進において強いパワーを示した。葛樹氏は「イノベーション主体別では、企業が国内全体の73.1%を占めるデジタル経済分野のコア産業に係る有効發明專利を保有し、中国デジタル経済の発展を牽引する主な力になっている」と紹介した。

中国はデジタル経済の主要なコア技術分野で良好な発展傾向が見られる。人工知能を例にとると、2021年に中国、米国、欧州、日本、韓国の五大特許局より権利付与された人工知能に係る中国の發明專利は5万7000件に達し、2016年の5.1倍となり、年平均増加率は38.5%であった。先頃、ドイツ特許商標庁が発表した報告によると、2021年にデジタル化関連のデジタル通信などの技術分野で中国出願人によってドイツに提出された專利出願の公開数は前年より明らかに増加し、その優位なポジションは確固たるものとなっている。

葛樹氏は「今後、国家知識産権局はビッグデータ、人工知能などの新分野、新業態の知的財産権保護制度の研究と実践を深化させ、データの知的財産権保護プログラムの実施を推進し、デジタル経済のイノベーションと発展のスタミナ源を強化し、中国のデジタル経済分野の新たな優位性の確立をサポートする」と紹介した。

http://www.iprchn.com/cipnews/news_content.aspx?newsId=135319

2021年中国知的財産権統計年報が公表

先頃、中国国家知識産権局戦略企画部が『2021年中国知的財産権統計年報』を公表し、知的財産権統計データクエリガイド（2022年版）を更新、公表して、人々が効率的かつスピーディに知的財産権統計データを取得できるよう利便性を改善した。

紹介によると、統計年報は2021年の中国専利、商標、地理的表示、集積回路配置図設計の審査、登録、登記データ及び関連履歴データを収録しており、国内外権利者の類型や国際特許分類などに基づいてグループを分けられている。

国家知識産権局戦略企画部は知的財産権統計データクエリガイドの更新、公表作業を引き続き改善し、2年連続で知的財産権統計データクエリガイドを編集、公表した。2022年版クエリガイドは1985年以降の知的財産権に関する主な統計指標と履歴データを収集し、2021年の主な指標データを追加して、ワンページで総覧、ワンフォームで確認、ワンクリックでダウンロードの機能を実現している。

国家知識産権局戦略企画部の関係担当者は、今後も引き続き「実施年」キャンペーンを着実に展開し、情報化の手段を用いて、統計データの最新化、具体化と可視化を模索し、質の高い統計に関する公共財とサービスを提供し続けていくと紹介した。

<http://www.nipso.cn/onewsn.asp?id=53741>

AI・IoT・ビジネスモデルの関連情報

デジタル技術が世界のサービス貿易を活性化

近年、インターネット、ビッグデータ、クラウドコンピューティング、AI、ブロックチェーンなどのテクノロジーのイノベーションが加速する中で、サービス貿易などの伝統産業に変革がもたらされている。中国国際サービス貿易交易会（SIFTIS）は、デジタル技術のイノベーションと各業界の交流・協力を重要なプラットフォームを構築し、デジタル技術と実体経済の深い融合を促し、世界のサービス貿易の発展に新たな活力とモチベーションを吹き込んだ。

より多くの新しい業態・モデルを生み出す

デジタル技術の新しい要素こそが、今回のサービス貿易交易会の見どころの一つである。総合展示・テーマ展示では、様々な新しい成果、新しい業態、新しいモデルが続々と登場した。

文化観光テーマ展示では、「文化観光+テクノロジー」没入型文化観光インタラクティブ体験スペース『千機円明』は、多くの観客を引き付けた。観客は、裸眼3D技術と最先端の5G+8K設備により、『千機円明』の映像を鑑賞しながら、円明園の全貌を体感することができる。

肺のフルスキャンは2秒、胸部スキャンは10秒、胸部画像のインテリジェント解析は20秒……サービス貿易交易会総合展の年次テーマ展示エリアでは、GEメディカルシステムズ貿易発展（上海）有限公司（GE Healthcare）が、花形製品の「深度天眼CT（Deep Sky Eye CT）」を展示した。この設備は、AIによる自動測位システム、コンパートメント制御機能を搭載しており、一人の患者のスキャン時間を30%短縮し、院内感染のリスクを減少させている。業界を跨いだイノベーション技術の統合は、医療などの産業のアップグレードの繰り返しを促している。

視聴者は軽量のヘッドマウントディスプレイを装着することで、4K画質と最短20ミリ秒の低遅延のメタバース体験を楽しむことができ、サッカーのゴールキーパーになり、メタバースのストライカーと対戦できる。これは、クアルコムがチャイナモバイル、中赫グループと共同で開発した「工体元宇宙（Gongti Metaverse）」、通称GTVerseの全く新しいアプリケーションシーンの体験型ソリューションである。VRやARなどの没入型体験技術の持続的な向上は、スポーツ産業の革新的発展のための大きなサポートとなっている。

サービス貿易の発展ポテンシャルを活性化

データによると、2021年、中国のデジタルサービスの輸出入総額は前年比22%超増の3,597億ドルに達し、デジタルサービスの純輸出は300億ドルに達

し、前年比 100%以上増加した。上海協力機構（SCO）の副秘書長は、「中国は電子商取引の発展において巨大なポテンシャルを持っており、国境を越えた電子商取引は、市場の開放性と包摂性をさらに高めることができる。SCO は実務経験を共有することで、特に電子商取引とデジタル経済において加盟国間の協力を強化したいと考えている」と述べた。

今回の中国国際サービス貿易交易会には、71 の国・国際機構が展示ブースを設けて参加した。「デジタルプラットフォームが、生産力を大幅に高め、貿易コストを引き下げ、競争力を強化している。」WTO の張向晨副総幹事は、ここ数年、デジタル技術の発展が世界貿易の加速的な成長を牽引していると指摘した。ビッグデータ解析、ブロックチェーン、IoT、3D プリンター、AI などの技術の発展に伴い、実体経済とデジタル経済がさらに統合され、サービス貿易の可能性は一段と広がるだろう。

より多くのデジタルサービス貿易による配当を共有

エプソン社のサービス貿易交易会への参加は今年で 2 回目となり、同社が展示したデジタル・インテリジェント農業ソリューションはすでに海南省などで応用されている。関連責任者の深石明広氏は「中国の広大な市場は、より多様で時代をリードするイノベーションの機会を多くの企業にもたらしてきた」と指摘した。

クアルコムは、5G や AI などの最先端技術と、製造分野などでの応用サービスを展示した。グローバル・バイス・プレジデントである侯明娟氏は、サービス貿易交易会のプラットフォームを最大限に活用して、デジタル・インターコネクション分野における将来の協力についてより多くの業界機関やパートナーと話し合い、中国や世界の市場の新たな発展チャンスを共有することを期待していると述べた。

建築科技企业の VELUX Group は、インテリジェント IoT 技術による建物の自己認識・調整の実現に取り組んでいる。グループの副社長であるパトリック・マッキンゼー氏は「中国はデジタルサービス貿易の分野で大きな発展を遂げており、サービス業とサービス貿易は明るい展望が開けている。今年サービス貿易交易会が予定どおりに開催され、世界各国がデジタルサービス貿易による配当をさらに共有するプラットフォームが構築された」と述べた。

<http://sn.people.com.cn/n2/2022/0905/c186331-40110942.html>

**オンライン視聴者数が 6.38 億を突破！
世界人工知能大会：「数千のウェブサイトが配信し、
数万人がクラウドで集まり、数億人が視聴」を実現**

2022 世界人工知能大会（WAIC）が 9 月 3 日に閉幕した。今回の世界 AI 大会は「インテリジェントコネクティビティ、無限のマルチバース」をテーマに、開会式、2 つの全体会議、閉会式を含む合計 121 のイベントが開催された。

今年、国内外の AI 分野の学者、著名な企業家、国際機関の代表者などの重鎮 500 人以上が集まり、その中には、チューリング賞受賞者 4 名、ノーベル賞受賞者 1 名、フィールズ賞受賞者 1 名、Marr 賞受賞者 1 名、国内外のアカデミー会員学者 80 名余り、トップ大学の学長 20 名余りが含まれている。Baidu、Huawei、Qualcomm、Meta などの大手テクノロジー企業の責任者も集まり、産業イノベーションの動向について議論をした。大会フォーラムは、技術イノベーション、産業アプリケーション、法の支配倫理、エコロジー建設の 4 つの主要分野を取り上げた。AI+メタバース、ジェネレーティブ AI、トラステッド AI、ブレイン・コンピュータ・インターフェイスなど、AI の世界的なホットなテーマを含む 30 以上の議題に関わっている。

9 月 3 日午後 2 時時点で、37 万人がオンラインでメタバース展を体験し、700 余りのメディアが大会を配信し、2000 以上のネットワークとセルフメディアに影響を及ぼし、全ネットワークのネット視聴者数が 6.38 億人を超え、「数千のウェブサイトが配信し、数万人がクラウドで集まり、数億人が視聴する」効果を生み出した。

閉幕式では、「新たなメタバース・プラットフォーム共同構築」発足式が行われた。快手上海 R&D センター、幻身科技 VR インテリジェント R&D センター、清博インテリジェントメタバース研究院などの重要なプロジェクトがメタバース・プラットフォームの構築、産業イノベーションの加速に取り組む。「上海 AI 代表的産業プロジェクト」25 項目が調印され、投資総額は 150 億元に迫った。

<http://sh.people.com.cn/n2/2022/0905/c134768-40111115.html>